

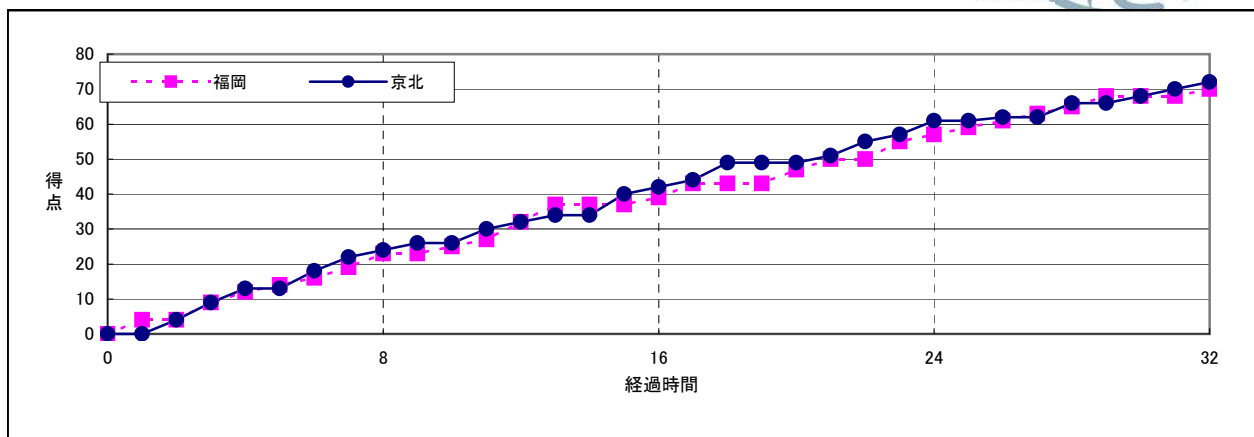
【game report】

No. 3 - HB - 2

平成20年度全国中学校体育大会  
第38回全国中学校バスケットボール大会



試合区分	3日目 男子 HBコート第2試合 決勝トーナメント準決勝			
日時	8月25日(月)	10:50 ~		
会場	東総合スポーツセンター			
結果	福岡	70 ●	72 ○	京北 東京
	福岡			
審判	主審 平山 尚	副審 飯塚 勝		



【個人トータル表】 ×=スターティングメンバー / =出場選手 空欄=出場なし

No.	選手氏名	Pl-in	得点	3 P	2 P	FT	反則
4	津川謙史朗	×	11	3	1	0	3
5	川口颯	×	10	2	2	0	2
6	山口拓也	×	27	1	8	8	1
7	吉丸修太	×	14	0	7	0	0
8	山本純平	×	8	0	3	2	2
9	坂本龍之介	/	0	0	0	0	0
10	塚本尚司	/	0	0	0	0	1
11	田崎拳哉						
12	柳井秋人						
13	木下俊輔						
14	末松耕平						
15	馬渡健吾						
16	増野大輔						
17	坪内慎吾						
18	高橋一希						
監	下川智紀	/	/	/	/	/	/
C	蛭川秀樹	/	/	/	/	/	/
合計			70	6	21	10	9

No.	選手氏名	Pl-in	得点	3 P	2 P	FT	反則
4	田渡凌	×	45	2	18	3	3
5	池田慶次郎	×	12	0	6	0	1
6	菅野遥亮	/	0	0	0	0	0
7	佐々木祥太						
8	馬場凱士						
9	加山聖						
10	河内悠一郎						
11	高橋涼						
12	西山誠也						
13	岡田大貴						
14	伊藤達哉	×	2	0	1	0	3
15	三上健人	×	0	0	0	0	3
16	木林毅	×	11	0	5	1	2
17	石原卓						
18	新川敬大	/	2	0	1	0	0
監	田代直人	/	/	/	/	/	/
C	田渡敏信	/	/	/	/	/	/
合計			72	2	31	4	12

3 P = 3ポイントシュート 2 P = 2ポイントシュート FT = フリースロー

決勝トーナメントを順当に勝ち上がった京北と、接戦を制し勢いに乗る福岡との準決勝。  
 1Q、京北は2-2-1から2-3のゾーンプレスゾーンDef。福岡はハーフ2-3ゾーンDefでスタート。立ち上がり京北は速い展開でボール運び、#4を中心に得点する。対する福岡は#4、#5、#7のドライブや3Pなど、多彩な攻撃で得点を重ねた。両チームともフリースローを含めてシュートを確実に決め、一進一退の攻防が続いた。福岡23-24京北で10終了。  
 2Q、福岡はDefをハーフマンツーマンに変えた。これに対し京北は素早いボール回しから#4、#5が確実にシュートを決めるとともに#16への合わせが機能して得点を伸ばす。一方、福岡は京北のゾーンプレスにうまく対応できるようになり、リズムの良いボール回しから#4、#7が得点を重ねた。39-42、京北3点リードで前半終了。  
 3Qに入ってもDefは京北ゾーン、福岡マンツーマンのまま展開する。京北#4の連続ゴールで2分過ぎ49-43と突き離しにかかるが、ここから福岡も辛抱強くDefを頑張り、京北を残り3分13秒までノーゴールに抑え、福岡は#5の3Pで50-49と逆転に成功。しかし、ここから京北#4の連続ゴールなどで再逆転、61-57の京北4点リードで3Qを終了する。  
 4Qの立ち上がり、福岡は#8の粘り強いリバウンドからの得点で逆転するが、その後はお互いに一步も譲らず緊迫した展開が続く。同点で迎えた残り1分30秒、京北#4のミドルシュートが決まり2点リード。さらに残り2秒、#14からゴール下#18へのあわせが見事に決まる。京北が4点リードをしたところで福岡後半2回目のタイムアウト。福岡は続けて3回目のタイムアウトを取り逆転を狙う。その後、福岡#8のゴールしたシュートで2点を返すがここでタイムアップ。72-70で京北が逃げ切った。  
 両チームともターンオーバーが少ない好ゲームであった。また、シュートの精度が極めて高く、準決勝にふさわしいハイレベルの戦いであった。

記録者： 佐藤 光